第３・４学年　総合的な学習の時間　学習指導案

屋久島町立八幡小学校　教諭　橋口　和真

１．単元名　大単元名「発見，発信，屋久島の自然」
小単元名「自然を守る取組を考え実践・発信しよう」（全２５時）

２．小単元の目標

○　屋久島の豊かな自然とそれを取り巻く環境問題についての理解をもとに，自然を守っていくための具体的な活動に取り組むことを通して，グローカルな視点で成果と課題を記録・分析し，自然を守るための諸活動の必要性を理解し，自分にできる取組を継続して実践することができる。
（知識・技能）

○　屋久島の自然を守っていくための具体的な取組について筋道を立てて考え実践することを通して，その取組の成果と課題を捉え，これから自分に持続してできる取り組み方を選択・判断し，表現することができる。（思考・判断・表現）

○　屋久島の自然を守っていくための具体的な取組を主体的に考え実践することを通して，グローカルな視点で世界や屋久島の持続可能性を考えることができる態度を育み，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚を養う。（主体的に学習に取り組む態度）

３．単元について

⑴　教材観

本小単元は，大単元「発見，発信，屋久島の自然」の中に位置し，環境省のアクティブレンジャーの協力によって行う小単元⑴「屋久島の海の自然について調べよう」小単元⑵「屋久島の山の自然について調べよう」に続く小単元⑶にあたる。

小単元⑴では，「海のレンジャー体験」を軸とした，屋久島の海の自然の調査を行う。児童はこの小単元で，屋久島の海の自然が豊かで多様な生態系を育む場所であることと，海を取り巻く環境問題が深刻化していることについて学習をする。

小単元⑵では，「山のレンジャー体験」を軸として，屋久島の山の自然の調査を行う。世界自然遺産地域に赴き，世界自然遺産に登録された根拠や，屋久島の多様な生態系，特徴的な植生の垂直分布について学習する。また，ヤクシカが増えすぎていることや，外来種が多く入り込んでいること，観光客のオーバーツーリズムなど，屋久島が抱える様々な問題についても学習する。また，二回のレンジャー体験を行った証として「子どもレンジャー」としてアクティブレンジャーから認証される。

本小単元⑶「自然を守る取組を考え実践・発信しよう」は，それらの小単元⑴と⑵で学習してきたことの理解をもとに，子どもレンジャーとして屋久島の自然を守るために自分たちにできることを考え，行動し，その成果を分析する学習となる。子どもたちは，それぞれの課題意識をもとに取組を考え，実践していく。また，絶滅危惧種のヤクタネゴヨウを保全している活動家のヤクタネゴヨウ保全活動を見学することを通して，自分たちの取組を振り返り，その成果と課題をまとめる。

１年間，屋久島の自然を題材に学習することを通して，子どもたちにグローカルな視点で世界や屋

久島の持続可能性を考えさせ，子どもたち一人一人が「これからも自分にできることは何か」を考え実行していくことができる，資質・能力や態度を育むことをねらいとする。

⑵　児童観

本学級は３・４年生の複式学級で，3 年生３名，4 年１４名の計１７名学級である。4 年生は，本単元を 3 年生の時も学習しているので，教材に対する理解が進んでおり，本年度はより理解を深めたり，3 年生に教えたりしている。3 年生は，初めて総合的な学習の時間の学習だが，4 年生のサポートのもと，安心して学習を進めることができている。

本校は，約半数が島外からの移住者の家庭であり，もともと自然に関心が高い子どもが多い。休みの日には，海や川，山に出かけ，思いっきり自然を満喫して遊んでいる子どもたちである。自然に親しみを持ち，屋久島が大好きな子どもたちであるが，小さな頃から豊かな自然が当たり前にあることで，その有難味や持続可能性への考えが希薄な傾向がある。この豊かな自然を持つ屋久島を，今後も守っていく態度を育んでいくためにも，屋久島の自然の特徴をしっかり理解させ，具体的な自然を守っていく活動を考えさせたい。そうすることで，より郷土屋久島を愛し，自ら学び，考え，行動する子どもたちを育てていきたい。さらには，屋久島の地から世界を考え，自分たちにできることが，世界の課題に関係することを意識させたい。世界自然遺産登録の地に住む子どもたちが，屋久島の地から声を上げていけるようにしたい。

⑶　指導観

指導に当たっては，以下のことに留意する。

「課題の設定」段階では，屋久島の海と山の自然について理解したことを，SWOT 分析により整理させ，これまでの学習を生かして，屋久島の自然を守っていく取組について学習課題を設定させるようにする。その際，取組をより具体的にしていくために，どのような道筋（日時，回数，協力者の有無，成果集計の方法など）で取組を具体化していくのかを考えさせ，子どもたちが主体的に考え，行動できるようにさせる。また，取組の具体的な目標を考えさせたり，この地域での取組が世界の課題解決（SDGｓ）にどのようにつながるのかを考えさせたりして，グローカルな視点で成果と課題を分析し，振り返りができるようにさせる。

「情報の収集」段階では，実際の取組を行うことを通して，その成果や課題を具体的に記録させるようにする。また，協力者が必要な場合や，外部講師が必要な場合は，子どもたちにアポイントを取らせる等をして，より子どもたち主体で進めることができるようにする。また，地域，家庭，児童会との連携を積極的にとらせ，地域的な取組になるように促していく。

「整理・分析」段階では，記録してきた取組の成果と課題を整理させることを通して，地域の何が変容したか，世界の課題解決（SDGｓ）にどのようにつながるかなどを分析させ，グローカルな視点で自分たちの取組を振り返らせる。また，ヤクタネゴヨウ保全活動を見学することを通して，その活動と自分たちの取組を比較させ，今後へ生かしていこうとする意欲を高める。

「まとめ・表現・振り返り」段階では，自分たちの取組の成果と課題をまとめさせ，学習発表会で報告させる。また，本年度の学習や取組が次年度の３・４年生に引き継がれるように，記録を残したり，まとめを残したりさせる。３年生は，次年度も同じ学習をすることを見通し，新３年生に向けた引き継ぎの発表を作らせる。４年生は，５年生で屋久島の産業を扱うこと見通し，キャリア教育に関係させて，持続可能な屋久島を創っていくためにこれからの自分にできることを考えさせる。

⑷　ESD との関連

○　この題材で働かせるＥＳＤの視点（見方・考え方）

・　相互性…屋久島の自然が動植物の関係によって成り立っていることや，屋久島の自然がわたしたちの生活を豊かにしてくれていること。

・　責任性…屋久島に住む人々や，世界自然遺産を有する土地に住む人々が協力し合い，豊かな自然を守っていくこと。

・　公平性…将来の世代に豊かな自然を残すためにも，今の私たちの意識や行動を変え，住み続けられるまちを作っていく必要があること。

○　この学習を通して育てたいＥＳＤの資質・能力

・　多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）
…屋久島の自然について，動植物のつながりの視点や，わたしたちの生活とのつながりの視点で考える。

・　他者と協力する態度
…他者や他地域と協力して，豊かな自然を守ろうと考え，実行しようとする。

・　進んで参加する態度
…豊かな自然を将来に残していくために，進んで自分たちにできることを考え実行しようしたりする。

・　コミュニケーションを行う力
…豊かな自然をも守っていくために，自分たちに何ができるのか，意見交流を通して自分の考えをつくりあげる。

○　この学習を通して育てたいＥＳＤの価値観

・　自然環境、生態系の保全を重視する。（生物多様性の重視）
…世界に誇れる屋久島の自然を，自分たちが発信し，保全していく。

・　世代間の公正
…豊かな自然と共存していくまちを自分たちが作っていく。

○　達成が期待されるSDGs

１１　住み続けられるまちづくり

１５　陸の豊かさも守ろう

１７　パートナーシップで目標を達成しよう。

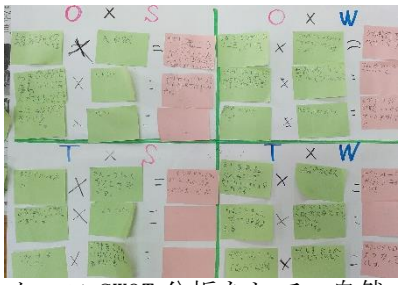
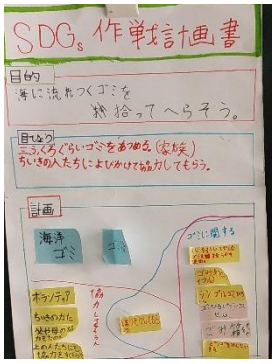
４．単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①屋久島の豊かな自然とそれを取り巻く環境問題についての理解している。 ②取組の成果と課題をグローカルな視点で記録・分析している。 ③グローカルな視点で自然を守るための諸活動の必要性を理解し，自分にできる取組を継続して実践している。	①屋久島の自然の状況を考え，自然を守るために必要な活動を考えている。 ②自然を守る取組を自分たちで筋道をたてて計画・実行している。 ③これから自分に持続してできる取り組み方を選択・判断し，表現している。	①屋久島の自然を守っていくための具体的な取組を主体的に考え実践している。 ②グローカルな視点で世界や屋久島の持続可能性を考えようとしている。

５．単元の指導計画（全 25 時間）

課程	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
課題の設定（３時間）	１　屋久島の海の自然，山の自然について SWOT 分析を行い，自然を守る取組について課題を設定する（３時間）	・　屋久島の海と山でそれぞれ SWOT 分析をさせて，課題意識や取組ごとにグループを作らせる。 ・　取組の目標が具体的になるようにさせる。	ア①（知技） イ①（思判表） ウ①（主体的）
情報の収集・整理・分析（14 時間）	２　取組を具体化し，実践する。 ・　計画（Plan） ・　実践（Do）	・　取組の筋道（日時，回数，協力者の有無，成果集計の方法など）が具体的になるように計画，実践させる。 ・　子どもたちが進んで協力者を求めることができるように支援する。特に，これまで学習に協力してくださった方々を進んで活用する。（レンジャー） ・　取組の記録をとらせる。	イ②（思判表） ウ①（主体的）
	３　取組の成果と課題を分析する。 ・　分析（Check）	・　取組の記録をもとに，その成果と課題をグローカルな視点（地域の変容，SDG s との関連）で分析させる。	ア②（知技）
	４　ヤクタネゴヨウ見学に行き，自然保全活動の実態を知る。 ・　自分たちの取組との比較	・　自分たちの取組と比較させて，取組の意義や成果を振り返らせる。 ・　実際に保全活動を進める人に憧れの思いを持つことができるようにする。	ア②（知技） ア③（知技）
まとめ・表現・振り返り（８時間）	５　自分たちの取組の成果と課題をまとめ，報告する。 ・　屋久島町 ESD ウィーク ・　学習発表会	・　成果と課題の分析をもとに自分たちの取組を振り返らせ，自己評価させる。 ・　屋久島の持続可能性について考えを発表させる。 ・　これからの自分にできることを発表させる。	ア③（知技） イ③（思判表） ウ②（主体的）
	６　次年度に向けて学習を引き続く・ ・　新３年生への引き継ぎ ・　将来の自分像	・　新４年生になったときに，新３年生に学習を伝える発表を考えさせる。 ・　キャリア教育と関連させて，持続可能な屋久島を創っていくために，自分がどのようなことをしていきたいかを考えさせる。	ア③（知技） イ③（思判表） ウ②（主体的）

６　指導の実際

課程	主な学習活動	学習の支援，児童の様子
課題の設定	１　屋久島の海の自然，山の自然について SWOT 分析を行い，自然を守る取組について課題を設定する（３時間）	T：SWOT 分析のやり方を指導する。 S：「海のレンジャー体験」「山のレンジャー体験」で分かったことを SWOT 分析する。 これまでの学習で分かったことを SWOT に分類  クロス SWOT 分析をして，自然を守る取組を複数考える
情報の収集・整理・分析	２　取組を具体化し，実践する。 ・　計画（Plan） ・　実行（Do）	S：目的，目標，具体的な計画を考える。 A 海のゴミ拾い B シカ肉を食べてシカを減らす C 山のゴミについて調べ発信する D 詩を書いて新聞に投稿する  T：自分たちですること，協力者が必要なこと，取組の順序の視点で考えさせる。 T：学級ですること，グループですることを整理させる。 S：計画したことをもとに，取組を行っていく。 A 全校児童へ海岸清掃の呼びかけ（３/３PTA 主催で） ゴミ拾いビンゴカードを作成 B シカ肉に関するアンケートの実施（全校児童） レンジャー（外部講師）への相談 ⇒シカ肉ジャーキー作りの実施へ（３/３PTA 主催で） C レンジャーへ質問 ⇒回答結果を整理 ⇒他校への発信（屋久島町 ESD ウィーク）へ D クラス全員に詩を書いてもらう。 C グループと共同で他校への発信準備
	３　取組の成果と課題を分析する。 ・　分析（Check）	S:「山にゴミが落ちていないことがレンジャーから聞いて分かった。」⇒「観光客のマナーが向上している」 S：「たくさん協力者によって取組が現実化されていく」 ※現在実施中の取組は今後成果と課題を分析する。
	４　ヤクタネゴヨウ見学に行き，自然保全活動の実態を知る。 ・　自分たちの取組との比較 ４－２ 林業や木育について知る ・　KUMINO で遊ぶ	※ヤクタネゴヨウ見学は，２/２１に実施予定 S:木育インストラクターから林業や木育について教えてもらう。 S：木のおもちゃ「KUMINO」で遊び，「森を育てる」ことについて知る。 S：「地杉の良い匂いがするな」 S:「木を使うことで林業が推進される」 S：「私たちが森を育てていく」 S：「来年の３・４年生にもやってほしい」

まとめ・表現・振り返り	5　自分たちの取組の成果と課題をまとめ，報告する。 ・　屋久島町 ESD ウィーク ・　学習発表会（3/5）	S：屋久島町 ESD ウィークで屋久島町の他校と交流する。 S:「私たちと同じように山や海を守ろうとしている学校がたくさんある。」 S：「募金をしている学校はどうやって計画したんだろう？」
	6　次年度に向けて学習を引き続く・ ・　新３年生への引き継ぎ ・　将来の自分像	※実施中

7　実践の成果と課題

⑴　成果

○　SWOT 分析を行ったことで，小単元１，小単元２で分かったことが整理され，目的を明確化させて自然を守る取組を考えさせることができた。

○　取組を計画的に実現させていくことを通して，多面的・総合的に考える力や，見通しを持って行動する力の高まりが見られた。

○　自分たちだけの力ではなく協力者を募って自然を守る取組を計画させたことで，自分たちでアポイントを取ったり，必要な準備を主体的に行ったりするなど，自ら学び，考え，行動する態度が高まった。

○　児童の取組が保護者や地域住民へ広がり，学校と地域が連携・協力して住みよい地域を創っていく気運が高まった。

○　自分たちの取組が，次の３・４年生につながることを意識して学習に取り組むことができた。

⑵　課題

●　児童の主体的な学びに合わせたカリキュラムデザインが必要。確保していた時数内に実施できないことや，授業内に行うことができない内容もある。休日の活動は保護者や PTA の力を借りて実施している。

●　外部講師との連絡調整をするのに負担が大きい。児童の主体的な学びに合わせて外部講師を募ると，毎年講師捜しから始めなければならない。学校と地域を繋ぐハブ的な役割を果たす人がいるとよい。

●　一過性の取組，学習にならないようにする必要がある。本単元を通して，児童にどのような資質能力がついたのか，児童自身が認識し，振り返ることができるようにしなければならない。

屋久島町立八幡小学校３・４年生　総合的な学習の時間「発見！発信！屋久島の自然」

単元の目標【３年】	単元の目標【４年】
屋久島の自然を体験する活動を通して，屋久島には豊かな自然環境があることを知るとともに，それを守るために自分にできることに進んで取り組もうとする態度を育てる。	屋久島の自然を体験する活動を通して，屋久島の豊かな自然環境を守る人々の諸活動の工夫や努力について理解し，地域のために自分にできることを進んで行動しようとしたり，様々な人々と協力したりしようとする態度を育てる。

４年生学びのストーリー　**育てたいＥＳＤの資質・能力【①多面的・総合的に考える力，②他者と協力する態度，③進んで参加する態度，④コミュニケーションを行う力】**

	４月	５月	６月	７月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月

総合的な学習の時間

３年生での学習を振り返り，課題を設定する

過去の３・４年生の学習や取組を参考にする

屋久島の自然について知る・ふれる

小単元１　屋久島の海の自然について調べよう(24 時間)
(1)単元のめあてや１年間の学習を確認する。③
(2)平内海岸を巡視し探求課題をたてる。①
(3)海のレンジャー体験をする。②③④
(4)追加の調査活動をする。③④
(5)学習をまとめ発信する。①④
《学習内容》
世界自然遺産・屋久島国立公園とは
自然保護官（アクティブレンジャー）の活動
屋久島の海の自然の良さ（生物多様性）
抱える問題（海洋ゴミ）

小単元２　屋久島の自然について調べよう(28 時間)
(1)山の自然について探求課題をたる。③
(2)山のレンジャー体験をする。②③④
(3)追加の調査活動をする。③④
(4)学習をまとめ発信する。①④
《学習内容》
世界自然遺産・屋久島国立公園の規則
屋久島の山の自然の良さ（植生の垂直分布・屋久杉の特徴）
野生動物と植物の関係
ヤクシカの増加による問題（植生の減少・土砂災害・の作物への被害）
外来種による問題（生態系への影響）

屋久島の自然を守る・未来を考える

小単元３　自然を守る取組を考え発信しよう(18 時間)
(1)自然を守る取組について探求課題をたてる。③
(2)自分たちにできる取組を実践する。①②④
(3)追加の調査活動をする。①③④
・ヤクタネゴヨウを見学に行く
(4)学習をまとめ，発信する。①④
《学習内容》
SWOT 分析の方法（情報の整理分析）
ヤクタネゴヨウの保護活動について
アンケートやインタビューの実施
取組の成果と課題

５・６年生「創ろう，わたしたちの屋久島」産業を中心に

教科・領域との関連［A：内容面，B：方法面］

[社会]県の地図を広げて
・屋久島の気候，黒潮

[国語]聞き取りメモの工夫
・メモの取り方(B)

[国語]アップとルーズで伝える
・写真の撮り方(B)

[算数]垂直と平行
・植生の垂直分布(A)

[社会]わたしたちのくらしとまちづくり
・ゴミの分別(A)
・水の循環(A)
・花崗岩の島→超軟水(A)

[国語]お礼の気持ちを伝えよう
・手紙の書き方(B)

[国語]新聞をつくろう
・新聞の作り方(B)

[道徳]自分たちにできるエコ活動

[社会]自然災害にそなえるまちづくり
・日本一の降水量(A)
・水害が多い(A)
・土砂災害(A)

[国語]クラスみんなで決めるには
・話し合いの仕方(B)

[理科]自然の中の水の姿
・水の循環(A)
・花崗岩の島→超軟水(A)

[国語]プラタナスの木
・屋久杉の根(A)

[社会]昔から今に続くまちづくり
・屋久杉の利用(泊如竹)
・屋久島ポンカン

[道徳]鳥に残した柿の実
・人と自然の関係(A)

[行事]八幡クリーン大作戦(ゴミ拾い)

[国語]もしものときにそなえよう
・自分たちにできること(A)
・水害に備えて(A)

[社会]自然を生かしたまちづくり
・屋久杉工芸品(A)
・地杉の利用促進(A)

[学活]食べ物と健康
・魚食のよさ(A)
・地産地消(A)

[国語]調べて話そう生活調査隊
・アンケートの取り方(B)
・調査報告のまとめ方(B)
・発表の仕方(B)

[算数]資料の活用
・グラフの活用(B)

[社会]国際交流が盛んなまちづくり
・観光客の増加(A)
・姉妹樹(A)

R5 年度校内研修（道徳科）「児童の自律性の向上を目指した道徳的判断力の育成～児童が自分自身で道徳的な判断を行う力の育成を目指したデザインの開発～」